

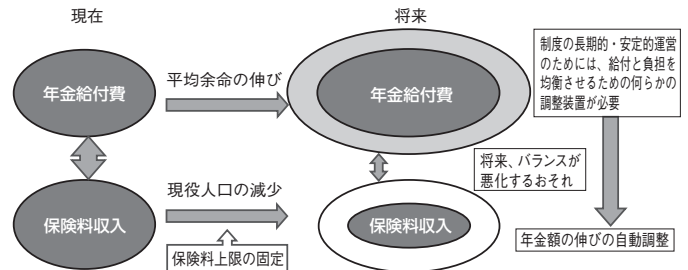
「マクロ経済スライド」

最近の年金関連ニュースの中で「マクロ経済スライド」という言葉を耳にした方は多いのではないのでしょうか。今回は、この「マクロ経済スライド」について説明します。

1. 「マクロ経済スライド」とは

「マクロ経済スライド」とは、そのときの社会情勢（現役人口の減少や平均余命の伸び）に合わせて、年金の給付水準を自動的に調整する仕組みで、2004年に導入されました。そもそも、年金の支給額は物価の動きによって見直しされる物価スライド制が採られています。しかし、年金を納めている世代が減り受給者が増えるという状況では、将来の現役世代の負担が過重となってしまいます。そこで、政府が最終的な負担（保険料）の水準を定め、その中で保険料等の収入と年金給付等の支出の均衡が保たれるよう、時間をかけて緩やかに年金の給付水準を調整することとしました。これが、「マクロ経済スライド」という仕組みです。

図1 年金給付費と保険料収入のバランスの変化のイメージ



厚生労働省 HP「マクロ経済スライドってなに？」より作成

厚労省が、この「マクロ経済スライド」という仕組みで、将来の現役世代の負担が過重となってしまうのを防ぐために、時間をかけて年金の給付水準を調整することとしました。これが、「マクロ経済スライド」という仕組みです。

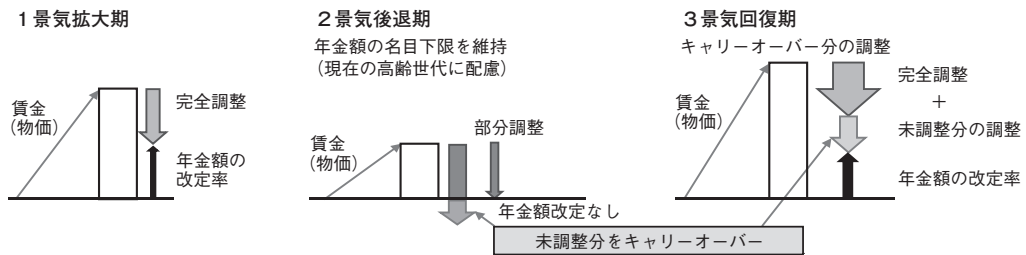
2. 具体的な仕組み

「マクロ経済スライド」による調整期間の間は、賃金や物価による年金額の伸びから、「スライド調整率^{※1}」を差し引いて、年金額を改訂します。また、2018年4月よりは調整ルールの見直しが実施されています。

- (1) 景気拡大期（賃金や物価の上昇率がスライド調整率を上回る場合で未調整分がない場合）は、スライド調整率分の年金額調整のみを実施します。
- (2) 景気後退期（賃金や物価の伸びが小さく、この仕組みを適用すると名目額が下がってしまう場合）には、名目額を下限とします。
- (3) 景気回復期（賃金や物価の上昇率がスライド調整率を上回る場合で未調整分がある場合）は、スライド調整率分の年金額調整と同時に繰り越したキャリアオーバー分の調整も実施します。
- (4) 賃金や物価の伸びがマイナスの場合には、賃金や物価の下落相当分は年金額が下がるが、それ以上の引き下げは行わない。

※1 『スライド調整率』=『公的年金全体の被保険者の減少率 + 平均余命の伸びを勘案した一定率（0.3%）』

図2 景気回復局面においてキャリアオーバー分を早期に調整（高齢者の年金の名目下限は維持）



日本年金機構ホームページより作成

3. まとめ

内閣府の「高齢者白書（令和元年版）」によれば「総人口が減少する中で65歳以上の者が増加することにより高齢化率は上昇を続け、2036年に33.3%で3人に1人となる」との見通しを発表しています。このことから、今までのように「老後資金は退職金と年金で」というわけにはいかなくなってしまうそうです。豊かな老後を過ごすためには、自分自身でしっかりと準備しておくことも必要だと言えるでしょう。

閑話ひとつ

- ▶人口統計上、「生産年齢人口」とは15歳以上65歳未満の人口を指します。私は、間もなく「老年人口」の仲間入りです。最近「人生100年時代」と言われていて、現在、65歳～69歳の4割以上の人働いているそうです（労働者人口としてカウント）。「生涯現役」という言葉もありますが、世の中の高齢者全員が元気に働けるわけではありません。各自、自分の健康や経済状況などを考慮し、自分に合った働き方や生き方を選択して行くこととなります。
- ▶これからの私は、自分の趣味を楽しみながら、肩の力を抜いて仕事も続けられる「アクティブシニア」を目指せばいいと思います。そのためには、何よりも健康であることが一番です。さらに、「人生はまだこれから」という気持ちで、常に好奇心旺盛に、謙虚に自分を磨いていきたいと思っています。
- ▶最後に、皆さまご存知のアップル社の創業者スティーブ・ジョブズ氏（私と同じ1955年2月生まれ）の名言を紹介します。 Stay hungry. Stay foolish. (H S)